

平成29年度 授業改善推進プラン 調布市立調和小学校

【児童・生徒の学力向上を図るための調査結果の分析より】

【学力向上に関する学校経営方針】

児童が将来においても学び続ける基盤を養うために、基礎的な知識及び技能を確実に習得し、その力を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の育成を目指す。また、誰もが分かりやすい授業を目指し、指導内容・方法を工夫する。さらに、昨年の研究成果を活かし、児童が主体的で対話的な授業を行い、その結果、深い学びが体得できるような実践を積み重ねて行く。

【平成29年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」に関する調査結果分析内容】

○関心・意欲・態度はよい。
●問題を読み取り、解決する力を伸ばす必要がある。
⇒調和小児童は、学習意欲をもっている。しかし、児童が問題に必要な情報を「取り出す力」「解決する力」に課題がある。課題や資料について主体的に思考・判断・表現し、解決するような授業を調和小全体で展開する必要がある。

【授業改善の方針・目標】

指導者が 児童が主体的・対話的で深い学びになる授業を行う。
・活動の目標を明確にし、文章や図表から取り出した情報を説明させる。
・内容の意図や背景、理由を理解・解釈させたり推論させたりして問題解決させる。
児童にとって 解きたくなる問題がある授業、自分で聞いたり調べたり説明したくなったりする授業

【授業改善のための具体的な取組】

●学習の目的・見通し・まとめをきちんとおさえて問題解決を行う。

国語
●叙述に着目し、根拠を明確にして考え、説明させる。
●読み取りだけでなく、説明文では筆者の考えに対する自分の考えをもたせるように、物語文では登場人物の気持ちを自分と照らし合わせながら読み取ることができるようになる。また、それを伝え合い交流しながら読み取る機会を多く取り入れる。
●接続詞の意味に着目して読み取る力を伸ばすため、文章における接続詞の役割を確認する。
●問いに対して、語尾を適切に書けるよう、普段から主語に正しくした語尾の使い方を指導していく。
●学習の基盤となる読書の習慣化に向けて、読書月間や図書室を有効的に活用する。また、学級でも学級文庫の充実や担任や保護者の読み聞かせ等、読書習慣が身に付くような指導に取り組む。
●東京ベーシックドリルを活用し、継続的に既習内容の定着を図る。

社会
●興味をもって基礎的な知識を身に付けられるよう、内容に応じて手法を工夫し、継続的に指導する。(3年生 方角・地図記号 4年生 都道府県、東京都の区市町村名、とくに自分の住む市の位置など 5年生 県名・特産物・日本の産業 6年生 世界の国名・日本の歴史)
また、各単元で確実に身に付けたい知識を明確にし、指導に生かす。その定着のため、ベーシックドリルを積極的に活用する。
●関心・意欲が高まる資料を提示し、因果関係やおおまかな傾向をつかむ活動や、複数の資料を比較したり関連付けたりする活動を行う。その過程で、話し合いや自分の考えを説明する場を多く設ける。
●社会科見学の気付きについて事後学習の場、グループ毎に話し合い、分類整理するなどを通して思考力を磨く。見学した事象を検討し、学習事項とつなげてとらえさせる。
●調べ学習に必要な資料を自分で探して、読み取り、まとめ、考察、発表する学習活動を行う。

算数
●児童が興味・関心をもって問題解決学習に取り組めるような問題提示を工夫する。また、生活に即した学習課題を多く取り入れる。
●問題を読んで場面をイメージし、課題を明らかにしたり、既習事項を関連付けたりする。
●言葉・数直線・図などを使って、筋道を立てて解き方を考え、ペア学習や集団討議を行い説明させる。
●数量や図形について豊かな感覚が育つよう、算数的活動を充実させる。
●東京ベーシックドリルを活用し、計算・作図などの練習を継続して行い、知識技能の定着を図る。
●授業の終わりにねらいに対応した振り返りを行う。

理科
●主体的に課題に取り組めるよう児童が自ら問題を見出しせるような導入の工夫をする。
●実感を伴った理解ができるように日常生活や既習事項と結び付けて予想したり、実験方法を考えたりできるように資料や掲示物を工夫する。
●実験や観察をできるだけ少人数で行い、一人一人の技能の向上を目指す。
●実験結果や資料などを読み取り、規則性を見出すような活動を取り入れる。
●考察を書く際、実験グループで話し合いをし、自分の考えを説明したり、互いの意見を交流したりする場を設ける。
●ベーシックドリルを積極的に活用する。

体育
●動きの図や模範の動きを見て、技能ポイントを理解し、運動に活かせるようにする。
●個に応じた運動ができるような学習の場を設定する。
●学習カード(ノート)を使い、動きの確認、ふり返りができるようにする。
●教え合い、学び合いができるようにペアの活動やグループの活動を取り入れる。
●学習の流れの中で、ふり返りを行い、よりよい動きを身に付けさせる。
●主運動につながるような準備運動、感覚づくり運動を取り入れる。

音楽
●歌唱(合唱も含む)・器楽などの基礎的な表現の能力を伸ばし、互いの音を聴き合いながら、思いや意図をもって主体的に表現活動に取り組めるようにする。
●鑑賞活動では、楽曲の特徴や演奏のよさに気付かせられるよう、楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表す活動を行う。

家庭科
●基礎的な知識や技能を身に付けることができるように、自分の生活と結びつけて考えられるようにする。
●学んだことを積極的に実生活で生かすことができるような教材を用意する。
●友達と考えの交流を通して、自分の考えを深め、よりよい生活のために創意・工夫することができる場面を設定する。

図工
●表したいことを見付け、形や色、材料などを生かし、計画的に取り組める力を育てる。
●表したいことに合わせて、材料や用具を活用できるような力を育てる。
●制作や鑑賞を通して、様々な作品のよさや美しさなどを自分の言葉で表現し、友達と交流できるようにする。

生活
●身近な事物や事象を用いて、児童に具体的な活動や体験をさせる。
●児童が自分のよさや可能性に気付き、自信をもって生活できるように、成長について友達と交流したり対話したりして、実感できるような活動を設定する。
●分かったことや考えたことを友達や大人に発表する機会を多く設け、経験を生かして伝え合う力を育成

●学習の終わりに学習用語を使った振り返りや到達度評価を位置付ける。

●基礎的な知識及び技能の習得
①学習規律の構築 ②習熟度別指導及び補習・個別指導の実施 ③補助教材の活用 ④家庭学習の充実 ⑤特別支援を要する児童への支援や配慮

【取組の進行・管理、評価方法、時期】

○学年の実態を学年会で共通理解し、具体的な取り組みの成果と課題を運営委員会で報告する。
○12月までの進捗状況を1月の運営委員会で報告し、教科ごとにまとめる。
○年度末学校評価を受けて3月に次年度の校内研究の方向性を示す。